

地域特性による自動車運転免許返納の要因と意識構造に関する研究

豊田工業高等専門学校 野田宏治
 呉工業高等専門学校 山岡俊一
 豊田工業高等専門学校 大森峰輝
 (株)キクテック 荻野 弘
 株式会社 NIPPO 吉田啓一郎

1. はじめに

超高齢社会と言われる今、高齢ドライバーによる原付以上運転者（第1当事者）が引き起こす交通事故件数は増加しており大きな社会問題となっている。こうした交通事故を防止する目的で、1998年（平成10年）に運転免許返納制度が導入された。しかしながら運転免許返納者は65歳以上の保有者の1%にも満たない。

そのため、「どのような人が返納しているか」、「返納者の居住地域の交通利便性」との関連など運転免許返納者の特性を明らかにし、自主的な免許返納を行える環境を整えていくことが必要である。

2. 目的

本研究では、平成25年に豊田市の高齢者を対象に行った運転免許返納に関するアンケートをもとに、地域特性による運転免許返納の要因と意識構造を明らかにする。一方で地域別による免許返納制度の利用の限界を明らかにする。

3. アンケート調査概要

表-1に本研究で行ったアンケート調査の概要を示す。アンケートの対象は豊田市内240の老人クラブに所属している高齢者の中から7地区24クラブを抽出した。調査地区は公共交通満足度¹⁾、バスの本数²⁾、高齢者による事故率³⁾の違いを考慮し、調査対象クラブは各地区の男性の多い順に2クラブずつ（崇化館地区のみ全12クラブ）とした。

4. 調査対象者の特徴

調査対象者全員の特徴⁴⁾を以下に示す。

- ・運転免許返納制度は90%以上の人が存在を知っているが、運転経歴証明書が交付されることを知っている人は30%であること
- ・運転免許を返納した際に困ることは「思い通りに外出できないこと」、「病院・買い物に行けないこと」
- ・近い将来返納したい人は「タクシーにお金がかかる」、

表-1 アンケートの概要

調査対象		豊田市老人クラブに所属する者		
調査地区選定項目		公共交通満足度	バスの本数	高齢者の事故率
調査地区	稲 武	高	少	大
	崇化館	中	多	大
	梅坪台	高	多	大
	竜 神	中	少	中
	末野原	低	少	中
	藤 岡	低	多	小
	下 山	高	少	小
調査クラブ数		24クラブ		
調査期間		平成25年12月11日～19日		
配布、回収方法		老人クラブ会長から会員へ配布、郵送		
配布・回収、回収率		2769部・1152部、41.6%		
調査項目		個人属性 公共交通機関 交通手段 免許返納制度の評価 返納後の生活 等		

公共交通満足度：豊田市自民意識調査上位7位を高下位7位を低、その他を中

バスの本数：平日の運行本数が0～11本を少、21以上を多

高齢者の事故率：60歳以上の人口に対する割合上位7地区を大、下位7位を少、それ以外を中

生活環境の向上で返納したい人は「駅やバス停が遠いことが困る」と考えている

- ・運転免許返納者へのサービスとして、代替移動手段のサービス向上と料金の割引を求めている

5. 地域別に見た返納後困ること

地域別に見た免許返納後に困ることを地域別にみると図-1の「思い通りに外出できなくなること」では、すべての地域で90%近くの人が困ると回答し、調査対象者全体の結果と同様で、地域による特性はないと考えられる。図-2の「農作業を行うことができなくなること」については、下山では困るとする回答が87%、稲武では76%で、他の地区に比べ高い。この結果は、「仕事に使えなくなること」と、同様の結果であることから農作業を仕事にしている人が困ると答えていると考えられる。

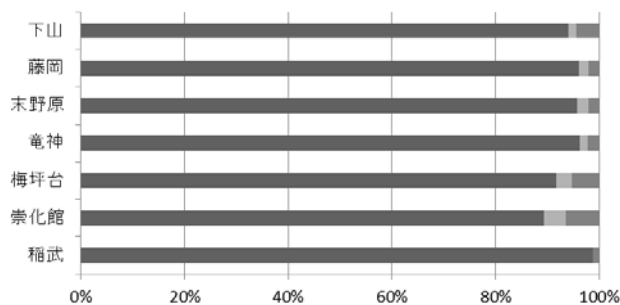


図-1 思い通りに外出できなくなること

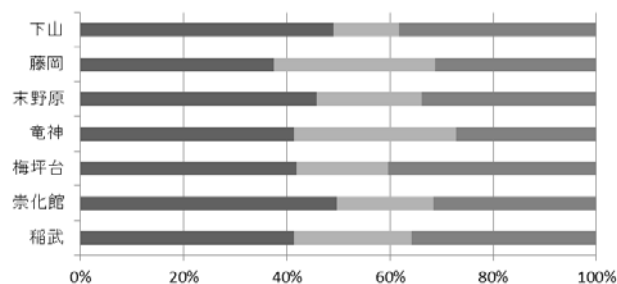


図-3 免許証がなくなり身分証がなくなる

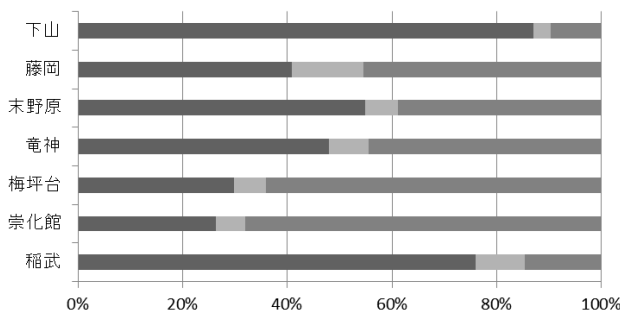
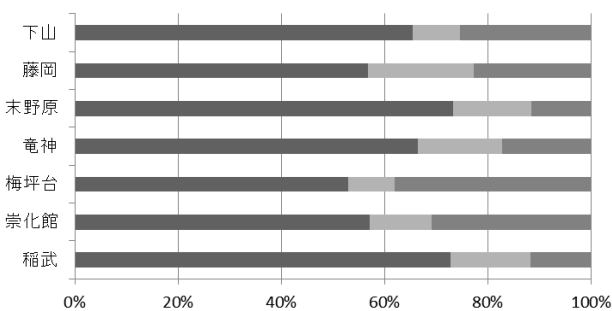


図-2 農作業を行うことができないこと



■ 困る ■ どちらでもない ■ 困らない

図-4 家族の負担が増えること

図-3の「免許証がなくなり身分証がなくなる」では地域ごとの差はあまり見られない。豊田市ではすでに免許を返納した65歳以上を対象に身分証明書として利用可能な顔写真付住民基本台帳カードの無料交付を行っており、自動車運転免許返納制度についてすべての地域の理解が低いことがわかる。

図-4の「家族の負担が増えること」では、どの地域でも困るとの回答が50%以上であるのに対し、「知人の送迎ができなくなる」については、どの地域も困ると答えた人は20%前後であることから、家族が生活の中心となっていることが分かった。

6. 地区による特性

「免許返納後に困る」について見ると農林業を主とする下山、藤岡では70%以上が「とても困る」、「少し困る」と回答しているのに対し、中心市街地である崇化館、梅坪台では50%以下となっている。特に下山、藤岡では軽トラを使用する比率が高いこともあり、公共交通のサービス水準を上げるだけでなく地域の産業構造からも免許返納を検討する必要がある。

7. 地域別に見た割引等のサービス要望

図-5に地域別に求めるサービスを示す。地域に関係なく、約40%が「公共交通機関の割引」を、約20%が「タクシーの割引」を求めている。このことから、地域別に見ても免許返納者へのサービスとして、自動車に代わる移動手段の割引を求めていることが分かった。

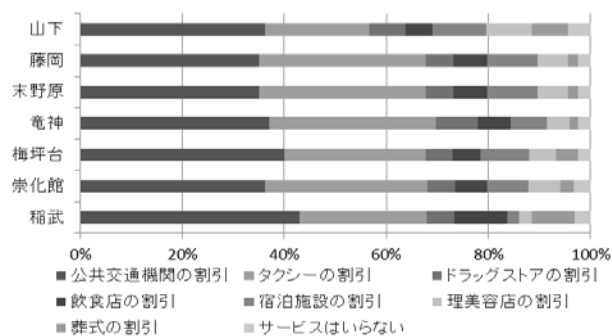


図-5 地域別に求めるサービス

8. まとめ

本研究では、地域別にアンケート結果を比較した。その結果、中心市街地の公共交通が充実した地域と山間地との地域による特色や共通する項目が明らかとなった。

免許返納には公共交通の充実が重要となるが、農村など人口の少ない地域では公共交通の充実が難しく、免許返納の限界も明らかとなった。また、公共交通が充実していても、農業を仕事にしている人が多い地域では免許返納は難しいことも分かった。

最後にアンケートにご協力いただいた老人クラブの皆様に記して感謝します。

【参考文献】

- 1) 豊田市企画課：豊田市民意識調査（第19回），2011
- 2) 豊田市交通政策課：豊田市バスガイドブック Vol1, 2013
- 3) 愛知県警察：交通事故データ，2012
- 4) 椎名透：運転免許返納の要因と意識構造に関する研究，豊田工業専門学校卒業研究，2014.2